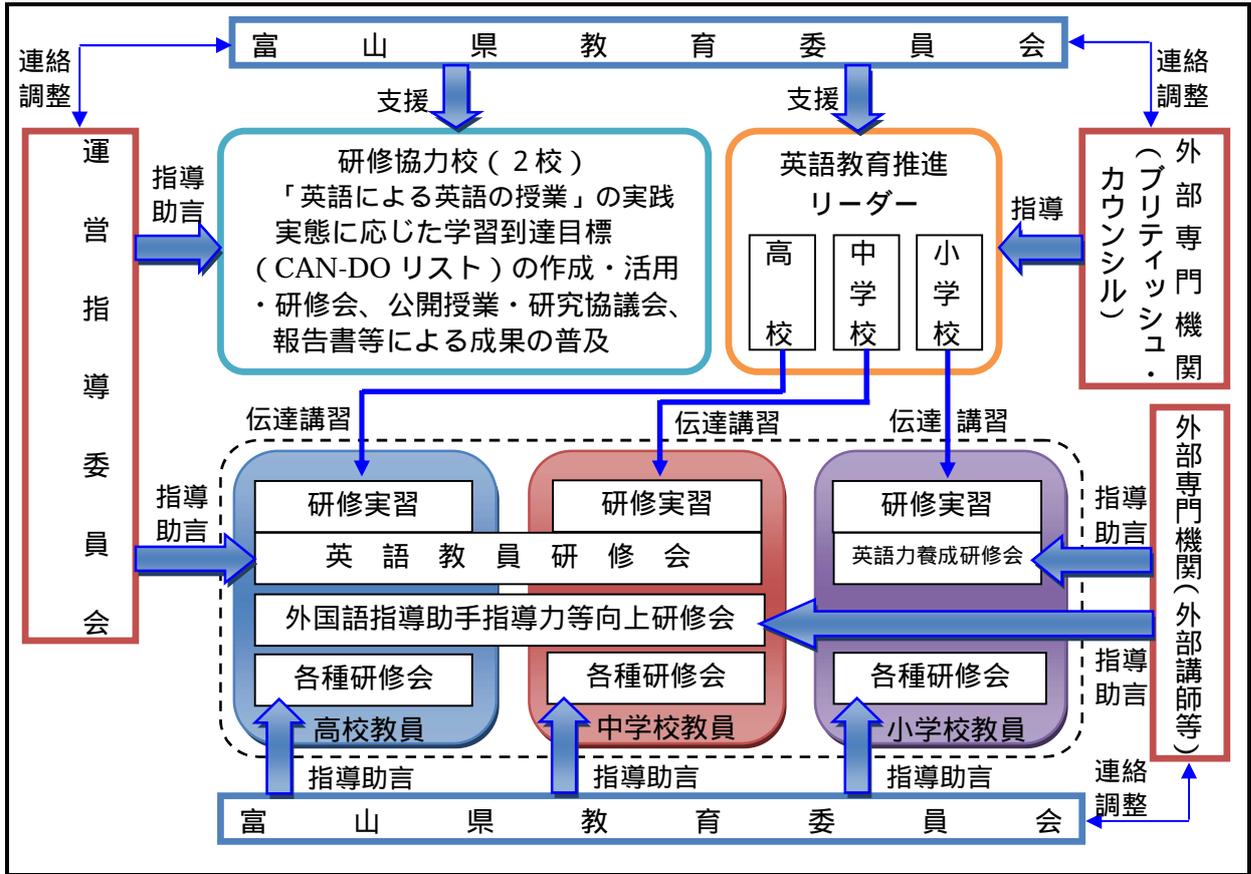


(様式3 - 2)

富山県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

求められる英語力を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合

【高校】H30 達成値：82.6% H31 目標値：80% (2022 年度:80%以上)

【中学校】H30 達成値：44.3% H31 目標値：55% (2022 年度:55%以上)

中学校、高校とも比較的高い割合であり、高校では目標値を達成している。

引き続き、あらゆる機会を捉え、英語教員を対象とする外部検定試験の特別受験制度について紹介するなどして、英語教員に外部検定試験の受験を促す。また、研修会等では、教員ができるだけ英語を使用する機会を増やすなど実施方法を工夫し、英語力向上への意識を高めさせるとともに、引き続き自己研鑽を推奨していく。

求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

【高校】H30 達成値：54.8% H31 目標値：50% (2022 年度：50%以上)

【中学校】H30 達成値：44.6% H31 目標値：50% (2022 年度：50%以上)

これまで、学校訪問や研修会等において、生徒の4技能をバランスよく伸ばすことができるよう、指導と評価について改善を促すとともに、生徒の能力を適切に測るために、英検等の外部検定試験を積極的に活用することを各学校に推奨してきており、求められる英語力を有する生徒の割合は増加傾向にある。今年度、高校で目標値を達成した。

今後は教員ができるだけ英語で授業を行い、より多くの言語活動を授業に取り入れるなど授業改善を促すことによって、生徒に実践的な英語力を身に付けさせる。また、自校のCAN-DOリストに基づき、教員が統一した基準で生徒の英語力を適切に評価することで、生徒の英語学習に対する意欲を高めることができることから、教員が生徒の英語力を適切に評価する力を養うために、パフォーマンステストの実施方法やその評価に関する教員研修を一層充実させていく。

「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

【高校】(設定) H30 達成値：100% H31 目標値：100%

(公表) H30 達成値：46.0% H31 目標値：100%

(達成状況の把握) H30 達成値：42.9% H31 目標値：100%

【中学校】(設定) H30 達成値：100% H31 目標値：100%
 (公表) H30 達成値：8.9% H31 目標値：100%
 (達成状況の把握) H30 達成値：39.2% H31 目標値：100%

CAN-DO リストの作成状況については、全ての学校で作成されている。しかし CAN-DO リストの公表や達成状況の把握においてはまだ不十分である。

今後は、各学校で CAN-DO 形式による学習到達目標を活用することの意義を改めて周知するとともに、効果的な活用例を紹介したり、自校の CAN-DO リストを持ち寄ってグループ協議を行う研修会を実施したりするなどして各学校における活用の充実を図る。さらに、生徒の実態に応じて適宜修正を加え、PDCA サイクルで改善を図っていくよう促していく。また、中学、高校とも、公表率が低いことから、CAN-DO リストの内容を生徒、保護者に伝えることを推奨していく。

授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【高校】H30 達成値：59.9% H31 目標値：70% (2022 年度：70%)
 【中学校】H30 達成値：74.0% H31 目標値：75% (2022 年度：75%)

中学校、高校とも、授業における生徒の言語活動は比較的良好に行われている。特に中学校においては、近年割合が大きく上昇している。一方高校においては、「コミュニケーション英語」に比べ、「英語表現」における言語活動時間の割合が低い。これは英語表現の時間において、文法事項等の一方的な説明及び問題演習に時間を多く費やしている教員が多いからではないかと思われる。

今後は、「文法はコミュニケーションを支えるものである」ことを改めて意識させるとともに、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の導入を促し、英語科全体として授業改善を図っていくよう働きかける。また、各種研修会等において、言語活動の取組例について情報交換することにより、各学校における言語活動を一層充実させる。

「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

【高校】(スピーキングテスト - コミュニケーション英語) H30 達成値：1.6 回 H31 目標値：2.0 回
 (2022 年度：3.0 回)
 (ライティングテスト - コミュニケーション英語) H30 達成値：2.1 回 H31 目標値：2.5 回
 (2022 年度：2.5 回)

【中学校】(スピーキングテスト) H30 達成値：2.8 回 H31 目標値：5.0 回 (2022 年度：5.0 回)
 (ライティングテスト) H30 達成値：3.7 回 H31 目標値：5.0 回 (2022 年度：5.0 回)

パフォーマンステストの重要性については、これまでもあらゆる場面で強調してきた。実施回数では、高校は、目標値を達成したが、中学校はまだ不十分である。引き続きパフォーマンステストに対する英語教員の意識を高めていく必要がある。

「話すこと」の評価については、期末考査後の、いわゆる特別授業の期間中にインタビューテストやスピーキングテストの形で実施している学校が多い。「書くこと」の評価については、定期考査で行っている学校もあれば、授業中のタスクや宿題としてエッセイ等を課している学校もある。ただし、評価は採点者に任されていることが多く、客観性に欠ける嫌いがある。

昨年度は、パフォーマンステストの実施方法や評価基準等に関する研修会を実施したが、2019 年度夏を目途に国立教育政策研究所によって提示される学習評価に関する参考資料等も用いて、各学校におけるパフォーマンステストの適切な評価法について、一層の実施・改善を図る。

授業における、英語担当教員の英語使用状況

【高校】H30 達成値：55.2% H31 目標値：75% (2022 年度：75%)
 【中学校】H30 達成値：69.8% H31 目標値：70% (2022 年度：75%)

学校訪問や研修会の機会を通じて、英語で授業を行う必要性とその具体的な方法等について周知を図っているが、まだ目標には届いていない。中学校、高校とも、学年が上がるにつれて、教員が英語を使用する割合が下がる傾向が見られる。特に高校では、「コミュニケーション英語」、「英語表現」における教員の英語使用率が低く、改善の余地がある。

今後は、教員が英語を使って生徒の言語活動を積極的に行わせているよいモデルを示すとともに、自己の授業スタイルを振り返る機会を与え、授業における英語の使用率を高めて全ての教員が授業をおおむね英語で行うことを目指す。また、英語の使用率に加え、教員が生徒と英語でインタラクションする能力を身に付けることも大切であることから、そのための研修を充実させていく。

域内の全小学校における、相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

【小学校】H30 達成値：1.0% H31 目標値：1.3%

年度当初に県内全公立小学校に外部検定試験の特別受験制度についての案内を配布するとともに、研修会等において紹介し、小学校教員に対して外部検定試験の受験を推奨していく。今後は、英語免許保有者を中心に英検・TOEIC等の資格取得を促す。

域内の全ての学校における、研修実施回数、研修受講者の人数及び全英語担当教員（小学校において全教員）に占める割合

【高校】（実施回数）H30 達成値：11回 H31 目標値：11回（2022年度：11回）
（受講者数）H30 達成値：308名 H31 目標値：380名（2022年度：380名）

【中学校】（実施回数）H30 達成値：7回 H31 目標値：7回（2022年度：7回）
（受講者数）H30 達成値：489名 H31 目標値：520名（2022年度：520名）

【小学校】（実施回数）H30 達成値：6回 H31 目標値：6回（2022年度：6回）
（受講者数）H30 達成値：920名 H31 目標値：900名（2022年度：900名）

平成30年度は、全ての校種において、ほぼ予定どおり研修会を実施することができ、実施回数、受講者数ともほぼ目標を達成した。

平成31年度においても、小学校教員対象の「英語力養成研修会」と、中学校・高校教員対象の「英語教員研修会」をそれぞれ実施する。「英語教員研修会」においては、これまで同様中高の教員が情報交換できる機会を設けることとしているが、両研修会の日程や内容を調整し、小中の教員が情報交換できる機会も設ける予定である。

今後とも、研修が教員の過度な負担にならないよう、他の研修と兼ねて実施するなどして研修の機会を確保し、できるだけ多くの教員が研修に参加できるようにするとともに、充実した研修となるよう内容を工夫する。

（3）研修の体系と内容の具体

研修協力校による研修（H31）

目的 学習指導要領の趣旨に即した、研修協力校独自の学習到達目標と英語指導法に関する研究

研修体制

研修協力校2校（高校）の設置

- ・ 県東部、県西部それぞれに1校ずつ研修協力校を置く。
- ・ 研修協力校が実践研究の経過・成果を発表する機会を設ける。
- ・ 各研修協力校で公開授業・研究協議会を実施する。実施に当たっては、各地区の高校のみならず、小中学校の教員にも広く参加を呼びかける。また、研究協議会では、参観した授業についてグループ協議を行い、その後全体で意見を共有するなどして、授業者、参観者の両者にとって有意義な協議会となるよう工夫する。
- ・ 年度末に研修報告書を作成し、全ての県立高校の英語教員に配布する。

運営指導委員会（外部専門機関：富山大学）による研修

- ・ 富山大学の英語教育を専門とする教授を運営指導委員に加え、運営指導委員と指導の方向性について協議しながら、継続的に研修協力校の指導にあたる。
- ・ 各研修協力校で運営指導委員会を実施し、授業参観後、研修協力校の実態に応じた英語の指導法について協議し、運営指導委員が指導助言を行う。
- ・ 研修協力校での公開授業と研修協力校以外の教員も含んだ研究協議会を実施し、運営指導委員による指導助言を行う。
- ・ 年度末には2校合同の運営指導委員会を実施し、研修協力校間において情報共有を行う。
- ・ 研修協力校の研究発表に対し、運営指導委員による指導助言を行う。

英語教員研修会の実施

目的 高度な英語力をもち、世界で活躍するグローバル人材を育成するため、英語教員の指導力の向上を図る。

実施形態 夏期休業期間中の2日間

対象者 中学・高校の英語教員（約120名）

研修内容 ・前年度の「英語教育推進リーダー中央研修」参加者による研修実習を行う。

- ・県内外の講師による言語活動に関するワークショップ等を実施する。
 - ・新学習指導要領への移行を見据えた「授業実践報告書」等を持参し、4, 5人でグループ協議・情報交換を行う。
 - ・中高の英語教員合同の情報交換・協議（CAN-DO リスト、定期テスト、年間指導計画等）を行う。
- その他**
- ・「授業実践報告書」は、研修参加者数を印刷、持参してもらい、全ての参加者に配布し、各学校で資料を活用できるようにする。
 - ・「教員に求められる英語力」（英検準1級程度以上）を有していない教員には、外部検定試験の受験を促す。
 - ・研修後アンケート調査を行い、次年度の研修会に生かす。

英語力養成研修会の実施

目的 小学校教員の英語力、英語指導力の向上を図る。

実施形態 夏期休業期間中に2日間実施する。

対象者 全公立小学校から1名の教員(悉皆研修)、英語専科講師等(希望研修)が受講する。(約210名)

研修内容 ・外部講師による講演会等を実施する。

・前年度の「英語教育推進リーダー中央研修」参加者による研修実習を行う。

その他 ・外部検定試験の特別受験制度についての案内を配布し、特に英語免許保有者を中心に英検・TOEIC等の資格取得を促す。

・研修後アンケート調査を行い、次年度の研修会に生かす。

ALT 研修会（外国語指導助手の指導力等向上研修会）

目的 全ての外国語指導助手（ALT）及び日本人外国語（英語）担当教員を対象に、効果的な語学指導ができるよう、必要な知識・技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、外国語教育の充実を図る。

実施形態 11月に2日間実施する。

対象者 全てのALT（約80名）及びALTが所属する学校等の中・高英語教員（約100名）

研修内容 以下の内容に関する講演やワークショップを行う。

コミュニケーションに対する積極的な態度を育てたり、コミュニケーション能力を養ったりするための、効果的な指導計画や指導方法について

効果的なチーム・ティーチングのあり方と実践について

教科書及びその他の教材の活用について

我が国の小・中学校・高等学校等における外国語教育をめぐる諸問題について

地域に根ざした国際理解教育・国際交流について

外国語指導助手の職務上の諸問題等について

再任用ALTの役割、職責・職務について

英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修実習（伝達講習）

外部専門機関であるブリティッシュカウンシルと連絡調整を行い、中央研修の趣旨・内容・方法等を十分理解したうえで、各校種において、研修実習が円滑に実施されるよう配慮するとともに、研修実習受講者にとって有意義な研修となるよう、実施時期・方法等について中央研修参加者と十分に打合せを行う。

平成31年度は、主に上記「英語力養成研修会」、「英語教員研修会」の中で実施する。

各種研修会

県高等学校教育研究会英語部会研究発表大会、県中学校教育課程研究協議会、県中学校教育課程研究大会、県小学校教育課程研究協議会、県小学校教育課程研究集会等、各種研修会において、県教育委員会として適切な指導・助言を行う。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	第1回運営指導委員会(研修協力校)	運営指導委員会における指導助言
7月	英語力養成研修会(小、2日間) 英語教員研修会(中高、2日間)	英語力養成研修会、英語教員研修会での講義・指導助言
8月		
9月	英語ディベート大会(高)	英語ディベート大会の審査・講評
10月	英語プレゼンテーションコンテスト(高)	英語プレゼンテーションコンテストの審査・講評
11月	公開授業・研究協議会(研修協力校) 外国語指導助手の指導力等向上研修会(中高、2日間) 学力向上研修会(小中)	公開授業・研究協議会における指導助言 外国語指導助手の指導力等向上研修会における講義
12月	外部講師による指導力向上講座(高)	外部講師(河合塾)による講演、指導助言
1月		
2月	第2回運営指導委員会(研修協力校、合同)	運営指導委員会における指導助言
3月	研修協力校2校による研究報告書の作成・配布(高)	
【その他の取組】 高校生とやま英語表現ハンドブック(KITOKITO TOYAMA)の活用(高) ・国際社会の中で、将来の富山や日本を担う高校生を、真の国際人に育てるため、とやまの文化・自然・観光・産業等を英語で表現する冊子を、全高校の英語科授業や国際交流の場で活用する。		

